



### 本号の主な内容

- 2面 平成19年度「建設マスター」当協会から17名受賞 / 【緑滴】【麹町箱】
- 3面 【技術レポート No.025】業界の将来担う若手技術者が活躍できる環境づくりを推進「全国一級造園施工管理技士の会」(一協会)事務局
- 4面 【総・支部だより】滋賀県支部・九州総支部 エコ・グリーンテック2007開催 / 【事務局だより】

## 平成19年度 第1回理事会開く

### 通常総会議案など審議



理事会のもよう

平成19年度第1回理事会が6月1日、東京・千代田区麹町の弘済会館で開催され、通常総会議案などを審議、承認された。

挨拶で佐藤四郎会長は、「日造協の21世紀の新たな取り組みとしての「ビジョン」

「21」を策定いただくと共に、協会の業務運営の基本的な対策として、「財政運営基本対策」を策定いただきました。

「ビジョン21」においては、緑を活かし共に生きるをキーワードに安心・安全な国土と都市づくり、健康で豊かな心を育む、「緑の景観・環境」創造事業をめざしてその実現に努めてまいります。

また、「財政運営基本対策」では、協会活動の基本的方向や財政のあり方を検討いただき、大変経営が厳しい環境中ではありま

すが会員の皆様に会費の改定を「承認いただきまし

た。平成19年度におきましては、人件費の削減、事務所

移転に伴う借料の縮減等を考慮すると共に、日造協のビジョンの推進のため、昨年(2006年)に引き続き全国造園フェスティバルの継続や伝統技能講習会等情報の共有化、技術情報の蓄積と発信等を積極的に推進いたします。

皆様方には今後とも、協会の事業活動について、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます」と述べた。



あいさつする桜井会長

## 美しく風格のある 国づくりを目指す

6・1「景観の日」全国大会を開催

「日本の景観を良くする 虎ノ門のニッショーホール

国民運動推進会議 全国大会で開かれ、各種表彰のほか、国民運動推進会議 全国大会が6月1日、東京・港区 基調講演、パネルディスカッションなどが行われた。

全国大会では、冒頭、主催者を代表して、同会議会長・桜井正光(経済同友会代表幹事)が「日本の景観意識はまだまだ、景観は貴重な財産であることをこの運動を通じて

広げていきたい」とあいさつ。次いで、福井昭農林水産大臣政務官、北側知克環境大臣政務官、中島正弘国土交通省都市・地域整備局長が祝辞、地域の大切な緑であつても、相続税の関係で失われるなど、景観の保全・形成には、さまざまな利害関係もあり、多様な取り組みが必要、大会を通じてその前提となる共通認識の獲得を図りたい、などと、景観を良くする運動への期待が寄せられた。

表彰式は、都市景観大賞(美しいまちなみ賞)(国土交通省)、美の里づくりコンクール(農林水産省)、自然公園写真コンクール(環境省)について行われた。

(関連記事2面) 基調講演は、静岡文化芸術大学の川勝平太学長が「日本列島の文化的景観」をテーマに講演。

次いで、鳴海邦碩・大阪大学工学部工学研究科教授のコーディネーターで、森真・岐阜県各務原市長、岡

田文淑・地域振興アドバイザー、山内拓男・中部経済同友会地域開発委員長、中部電力(株)代表取締役副社長、辻本智子・環境プランナー&デザイナー、(株)辻本智子環境デザイン研究所代表取締役所長の4氏をパネリストに「景観からのまちづくり、むらづくり」をテーマとするパネルディスカッションを開催。それぞれの専門分野からの話題やこれまでの経験などを踏まえて、さまざまな意見が交わされた。

平成17年6月1日に、景観に関するわが国初の総合的な法律「景観法」が全面施行されたことに伴い、現在および将来における国民共通の資産である良好な景観の形成について、住民事業者、地方公共団体が一体的に取り組む必要があることが示された。このため、景観の日である6月1日を

中心に、各種普及啓発活動を重点的に実施。同推進会議は、国民的な広がりをもつ、持続的な運動として展開することを目的に設立。会議は、(1)日本公園緑地協会、(2)国立公園協会など37団体で構成される日造協など関係92団体が協賛する。

## 樹林

私の子ども時代には、家のまわりに空き地や原っぱがいっぱいあり、毎日陽が暮れるまで遊んでいたように思います。しかし、空き地といつても人の敷地だらけ、原っぱといつても工事現場と隣り合わせだったので、子どもたちはそれぞれに気を配って遊んでいたのです。

その点、「公園」といふのは、「子ども天国だ」と感じていました。「この枠内なら何をしても遊んでも大丈夫だ」といって安全地帯でもあったのです。そのまま「公園」は、子どものために操縦された「おやけの森」なのです。

当時は、「ほ」の地面に鉄道の鉄棒「フ」の銀色のすべり台「フ」のきりぎりす「フ」のさびた鉄道の味気ない色彩に「フ」のさびた青々とした緑を色とり

どりの仲間が集まり、みごとに調和がとれて明るく楽しい空間となっていました。子どもが生まれて公園で遊ぶようになって、今まで眠っていた音の感覚が甦りました。楽しいです！子どもと一緒に遊ぶのが！けれども、まわりで遊んでいる親子は誰もいません。お母さんたちはみんな

な立ち話、遊具の順番争いでけんかになる子どもたち、なんだか私から見たらもったいないような過剰な時代です。後に「公園」が「遊」の現象が起きた時代です。昔と違って公園の遊具は色鮮やかで、外国製の目新しい遊具もおしゃれに配置されており、私たち親子はわくわくしながら公園

## 公園があることの幸せを伝えたい

子どものための造形作家・元幼稚園教諭 早末恵理



ひとつの無い場所に入り込んで遊ぶのが好きでした。さわめが遠くに聞こえ、公の場であり、外でありながら、我ら親子つきり！みたいな感覚が、隠れ家的で楽しいのです。

公園は親同士の社交場、子どもの協同性を養う場とよく言われますが、小さな子

どもに、見ず知らずの子どもたちとの協調性を強いるなんて気の毒です。自分が一番であつていいこの素晴らしい時代に、親子で思いっきり遊びたい遊ばせたい、友誼関係にながると私は信じています。そして、「公園は子どもの遊び場であつたらいい」と、そんな思いを綴った文章という

めくりを始めることにしました。いろいろな公園がありましたが、新しいところは整備されすぎていても感じました。四角い敷地は細かな砂利で固く、水はけがよくつまらない。

整然と並んだ遊具を試すのも面白いのですが、なぜか私は、端っこの植込みや

ひとつの無い場所に入り込んで遊ぶのが好きでした。さわめが遠くに聞こえ、公の場であり、外でありながら、我ら親子つきり！みたいな感覚が、隠れ家的で楽しいのです。

公園は親同士の社交場、子どもの協同性を養う場とよく言われますが、小さな子

どもに、見ず知らずの子どもたちとの協調性を強いるなんて気の毒です。自分が一番であつていいこの素晴らしい時代に、親子で思いっきり遊びたい遊ばせたい、友誼関係にながると私は信じています。そして、「公園は子どもの遊び場であつたらいい」と、そんな思いを綴った文章という

ストが、第4回ひとり提言賞を受賞したのです。そして私は、この受賞をきっかけに、公園や子どもの遊び場について意識するようになり、公園は、いろいろな決まりがある、一生懸命取り組む大人たちがいる、市民が協力して公園作りができる

こと、折しも公園での悲しい事故も社会問題となり、いろいろ考えさせられました。もちろん遊具が安全でなくてはならないのは大前提です。その上でさらに十分な配慮も必要で、いくら安全な基準を満たしている、使用方を間違えたり、遊び方やルールを知らなければ、それは事故につながってしまいます。

小さな子ども時代に親子で一緒に遊ぶことが、後の子どもにとっての貴重な体験となり、また、親子で触れ合うことで大人も子どもの行動の性質や特徴を知ることにもなります。

そして、そんな時間を過ごせることが何より幸せであるといつても多くの方に伝えたい。5月に出版した書籍「子どもと楽しむ遊びのヒント」に託しました。「公園=楽しい、安らげる」という感覚が成り立つ社会であることを望み、また本書がその一端になれば幸いです。

## お知らせ

平成19年度 通常総会 6月20日(水) 14:00~16:30 グランドプリンスホテル赤坂(旧赤坂プリンスホテル) 総会 14:00~15:30 講演 15:30~16:30 「楽しい地方の造園業」



# 平成19年度「建設マスター」 当協会から13名が受賞

## 人材対策でむつみ造園 受賞

毎年5月末に開催されていた「優秀施工者国土交通大臣顕彰式典」と7月末に開催されていた「建設産業人材確保・育成推進協議会全国会議」が平成19年度より「建設産業人材確保・育成対策顕彰式典」と名称を改めて5月30日に東京・港区のメルパルクホールで開催された。

平成19年度の優秀施工者 活躍が求められる。

国土交通大臣顕彰には43名が選ばれ、建設産業の第一線で活躍する技能者の社会的地位、評価の向上を図ることが目的。

特に優秀な技能、技術を持ち、後進の指導、育成等に多大な貢献をしている建設技能者を対象に実施している。優秀施工者は「建設マスター」として、さらなる研鑽と後進の指導などの

活躍が求められる。当協会関係受賞者は以下のごおり。  
山形信良秋田県(株)あかつき造園土木 野尻晃福島県(株)野尻緑産 広田光次朗 栃木県(株)清水造園 長井秀 巳千葉県橋本屋造園(株) 前原清俊千葉県内山緑地建設(株) 井川國雄石川県井川造園(株) 下出隆福井県(株)西野造園 今井郁文愛知県植芝園(株) 中村博充

京都府(株)植津田造園 石井宏之兵庫県神戸企業(株) 黒木敏彦広島県(株)有斐園 古長泉福岡県中村緑地建設 鳥山正記長崎県(株)庭建

第2部の「建設産業の人材対策」に関する顕彰では14社が選ばれ、当協会関係受賞企業は、秋田県の「むつみ造園土木(株)」が受賞した。建設業の工閉期の毎土曜日を利用して、社員が自

### Point of No Return

地球温暖化をはじめとした環境問題が新聞紙上に現れない日が無い。今、我々は本意の意味でこれらの問題点を理解してどうしようか？と科学的になりませんが皆さんご存知ですか？



緑 滴

地球温暖化に大きく関わっているのは「酸化炭素(CO2)」ですが、このCO2が存在しなければ理論上地球の平均気温はマイナス18度だそうです。

現在の地球の平均気温は15度ですが、この100年間で0.8度上昇している。これは産業革命後、利便性追及によって排出された主にCO2が要因です。(日本は1度上昇、東京は3度上昇)

0.8度と言われれば世界中の気温や海の水を0.8度上げるのにこの程度のエネルギーが必要なのか？ CO2が分解するのは、放射性物質

を固定する(年間約1700トン(億が無い)、京都議定書で計画されている削減量は約10億トンだそうです。この10年間で、生物は北半球では北極に向かい、南半球では南極に向かい6km移動しているそうです。(植生も変わってきているのか?)

このままのペースで進むと地球の平均気温が2度上昇するのに残りわずか20年、この間と異常気象の多発(現在も多くなってきた)と共に100万種の生物が絶滅すると言われております。

平均気温が3度上昇するの残りわずか約45年、この間と気象の暴走が始まり人類では手が付けられない状況となってしまうそうです(計算では2052年...すくそです！)

人間が利便性を追求した結果このよくな地球崩壊が始まっており、世界的な法整備が急ピッチで進められておりますが、今現在が将来を左右する点「Point of No Return」だと思っています。

造園業界に身を置き、造園が環境関連業種だと考えている我々は、まずこの事を十二分に理解し、率先的にCO2削減に向けた取り組みを行わなければならないと思います。まずは個人の意識から...

鈴木誠司(株)日比谷アメニス

## 美しいまちなみ賞9地区受賞 美の里、自然公園写真も表彰

「日本の景観を良くする国民運動推進会議」全国大会

「日本の景観を良くする国民運動推進会議」全国大会

会(記事1面)では、都市景観大賞「美しいまちなみ賞」(国土交通省)、美の里づくりコンクール(農林水産省)、自然公園写真コンクール(環境省)の表彰も行われた。

このうち、美しいまちなみ賞は、大賞に「北九州市紫川マイタウン・マイリバー整備地区」(北九州市)、山鹿市豊前街道山鹿温泉界隈地区(熊本県山鹿市)、優秀賞に「三春町大町地区」(福島県田村郡三春町)、「川口市リボンシティ地区」(埼玉県川口市)、「豊田市桜町地区」(愛知県豊田市)、「伊勢市神宮参道地区」(三重県伊勢市)、「宇部市中央町三丁目地区」(山口県宇部市)、「内子町八日市・護国地区」(愛媛県喜多郡内子町)、特別賞に「長岡市柘尾表町地区」(新潟県長岡市)が受賞した。

また、基調講演で「日本列島の文化的景観」をテーマに講演した川勝平太静岡文化芸術大学学長は、「国として持つべき力に、軍事力、経済力、文化力があり、その重点は時代とともに遷移し、これからは文化力の時代だ。日本は文化的景観に満ちている。山や滝をこ

体とし、借景を取り入れるなど、人の心が自然にも反映されている。こうした人の心が反映された、人の手が入った空間がガーデンだと思っており、日本はガーデンアイランドだ。また、北から南までの多様な気候地形を持ち、地球の縮図と見立てることができる。ガーデンアイランドを標榜した日本の文化的な取り組みは、世界のモデルとなりうる」と日本の文化力とガーデンアイランド構想について紹介。その積極的な取り組みの重要性を語った。

その後、応募者全員にアンケートをとった結果「身近な環境を見つめなおす機会になった。」また、庭に関してという項目では、ほぼ全員の方が「狭いスペースを利用した庭づくり、花壇づくりのアドバイザーがほしい」という希望があり、様々な民需拡大への提案をいただきました。民間レベルで、造園技能士や植栽基礎診断士の有資格者をもっと活かせるかもしれません。今回は、2回目となりますが、今年度は本部の協賛もいただき、前回応募が少なかった若い世代からの応募を促すためにホームペジからの応募を可能とし、また、テーマの一例として樹木や花の香り、感触なども項目に入れ、点字での応募も可能となりました。

この事業は、造園業界が建設産業の中で一番一般市民に近い業界であることとして市民の環境や緑化意識に目を向けることでたくさんの民需拡大へのヒントを探ることができると期待しています。

庭や公園に広がる物語と庭風景を絵手紙に託し、それぞれの応募者との「一語一絵」を今年も楽しみにしているつもりです。

(福島県支部 事務局長・中嶋 郁)

主体的な研修会を開催して自らのスキルアップに取り組みることができる環境を整備した。また、管内の工業高校の学生を長期間のインターン

シップの引き受けを積極的に行う等、独自の人材育成の環境整備に尽力したことが認められた。

お悔やみ  
大分県支部 支部長清水 龍様におかれましては、病

気で入院中とのこと、ご養生の甲斐もなく5月6日に逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

箱 昨年ひき続き今年度2回目となる「みどりの文」を地方新聞社と共催で4月28日より募集を開始いたしました。

これは、一般市民の方に身近な環境や庭を見つめなおし、手紙や絵手紙に託してもらおう企画です。昨年度は、県内外より263通もの応募があり、最高齢者96歳、最年少8歳でした。環境や庭は、世代を越えての共通のテーマであり、それぞれの人生の重要な部分に位置していることがよくわかります。

また、日頃環境整備にあたり、会員への手紙も多く、手入れ方法をとおして生きる知恵を学んだとお礼の文も届けられました。また、「一生懸命」「庭作りをしていただいた家族への感謝の想いや記念樹と家族との成長を伝える手紙も多く、庭作りをする家族の背中が人を優しく育ててくれるのだと実感し、家にはやはり庭がついて始めて「家庭」になるような気がいたします。

今、殺伐とした社会状況の中で、庭や環境を見つめなおすという作業が如何に重要か、多くの手紙に教えられました。もっと学校緑化が豊かで緑と触れ合う機会が多ければ、青少年の健全育成にも大いに役立つかも知れません。



市庁舎周辺には、複合商業施設や紫川と一体となった勝山公園大芝生広場が整備された



豊前街道から八千代座への入口に整備された公園とトイレ



# 技術レポート No. 025

## 業界の将来担う若手技術者が活躍できる環境づくりを推進

「全国一級造園施工管理技士の会」(一造会)の事務局



一造会賞受賞記念講演会のもよう



特別講演「南極よもやま話」はテラスで開催

日造協が実施する「街路樹剪定士」をはじめ、造園関連のさまざまな資格が存在している。こうした資格の中でも、国家資格として造園施工に欠かせない「一級造園施工管理技士」だ。

### 取得困難な最高位資格

この一級造園施工管理技士資格取得者の有志で構成されているのが、「全国造園一級施工管理技士の会」(略称・一造会)で、昭和63年

### 設立20周年へ向けて

日造協が実施する「街路樹剪定士」をはじめ、造園関連のさまざまな資格が存在している。こうした資格の中でも、国家資格として造園施工に欠かせない「一級造園施工管理技士」だ。

「市民交流会」を開催  
こうしたさまざまな課題を抱える中、近年新たにはじめた事業の一つが「市民と造園家の交流会」で、その第3

また、各種団体の会合は若手技術者が集う機会が少なく、現状だが、交流会には、20代、30代の若手技術者も多数参加し、日頃顔を合わせることもない、企業を超えた技術者が一堂に集まり、意見交換を行う貴重な場ともなっている。

さらに、学生の方々の参加も多くなり、比較的年代の近い若手技術者との交流できる機会となっており、今回は、新たに「学生相談コーナー」も設けられ、造園業界への率直な疑問などに会員が対応。次代を担うこれからの技術者に業界の実態、造園の素晴らしさを伝える場としての活用にも取り組んでいる。

一造会賞に2氏が受賞  
市民交流会では、「一造会賞」の受賞者記念講演も実施された。「一造会賞」は、技術者の頑張りや顕彰しようとする意気込みを、今年も第2回目で、優秀賞を受賞した榎本浩氏(株)日比谷アメニス、香取大氏(アコラ造園)の2氏が講演。ともに30代の技術者で、講演ははじめてのことだったが、受賞者の指定管理者として市民との協働による公園整備や、校庭の芝生化に伴う苦勞や工夫など、現場の第一線での取り組みについて解説。諸先輩などからの質疑などもあり、貴重な経験となったようだ。

法人一括納入を採用  
こうしたさまざまな取り組みを進め、造園関係団体の個人組織では大規模団体といえる一造会だが、3万人とも言われる一級造園施工管理技士資格取得者全体から考えると、まだその一部に過ぎない。資格取得者のうち、日常的に造園に取り組む技術者だけを考えると、より多くの技術者が積極的に参加する会としてのあり方が求められている。

技術者の支援事業を  
会員増による数のメリットは、造園施工の技術者としての提案を行う際にもその力を発揮する。地方公共団体をはじめ、クライアントに対して一造園技術者、一企業が造園の特異性を示し、工法や積算について訴えてもなかなか理解してもらえない場合もある。

組織運営の合理化推進  
法人一括納入など、一級造園施工管理技士がもっと参加しやすい団体とするための取り組みは、同時に組織の運営の合理化も進められる。造園関係だけでも一造会の発足した20年前に比べ、実にいろいろな資格が誕生し、さまざまな団体が設立されている。

若手技術者の参加も、一造会の誇る大きな特徴だが、さらに前回の役員改選では女性幹事も誕生。現在2名の若手技術者が役員会に参加している。そして、世代交代にも前向きに取り組む一造会だが、これまで活躍された方々がアドバイザー会議委員として、その後も会の運営に協力していることも一造会の大きな力となっている。そのほか、顧問、相談役には造園界を代表する各先生方が参加し、形だけでなく、年に1、2回の「事業報告会」をはじめ、さまざまな機会に、忌憚のない意見を寄せ、叱咤激励してくれるのも技術者によるフィードバックからそのもの。造園の一技術者として、同じ立場で、造園を語ることで、一造会であり、造園の内側だけでなく、広く社会に造園を語りなければならぬのが、現在の課題といえる。

一造会への入会に期待  
今回の「市民交流会」は、一造会賞や若手技術者の意見交換だけでなく、特別講演で南極観測隊の造園技術者として参加した大熊滝代さんらを迎えて、「南極よもやま話」、興水肇・明治大学教授の貴重なスライド約250枚を一挙に上映した「スライドショー」、造園技術や資材などを紹介した「パネル展」など、盛りだくさんの内容で、盛会となった。

一般市民へのアピールにはまだまだ微力だが、今後とも微力ながら継続的に実施していく方針。若手技術者が活躍できる環境づくりが、造園業界の将来に大きく影響してきている。

未入会の一級造園施工管理技士の皆さんのご入会、一造会賞への応募、市民交流会への参加など、企業の支援による一造会への若手技術者の参加も大いに期待されることとす。ぜひ一度、一造会の活動にご参加ください。

(参考) <http://www.icz.jp/>

「一造会賞」に2氏が受賞  
市民交流会では、「一造会賞」の受賞者記念講演も実施された。「一造会賞」は、技術者の頑張りや顕彰しようとする意気込みを、今年も第2回目で、優秀賞を受賞した榎本浩氏(株)日比谷アメニス、香取大氏(アコラ造園)の2氏が講演。ともに30代の技術者で、講演ははじめてのことだったが、受賞者の指定管理者として市民との協働による公園整備や、校庭の芝生化に伴う苦勞や工夫など、現場の第一線での取り組みについて解説。諸先輩などからの質疑などもあり、貴重な経験となったようだ。

法人一括納入を採用  
こうしたさまざまな取り組みを進め、造園関係団体の個人組織では大規模団体といえる一造会だが、3万人とも言われる一級造園施工管理技士資格取得者全体から考えると、まだその一部に過ぎない。資格取得者のうち、日常的に造園に取り組む技術者だけを考えると、より多くの技術者が積極的に参加する会としてのあり方が求められている。

技術者の支援事業を  
会員増による数のメリットは、造園施工の技術者としての提案を行う際にもその力を発揮する。地方公共団体をはじめ、クライアントに対して一造園技術者、一企業が造園の特異性を示し、工法や積算について訴えてもなかなか理解してもらえない場合もある。

組織運営の合理化推進  
法人一括納入など、一級造園施工管理技士がもっと参加しやすい団体とするための取り組みは、同時に組織の運営の合理化も進められる。造園関係だけでも一造会の発足した20年前に比べ、実にいろいろな資格が誕生し、さまざまな団体が設立されている。

若手技術者の参加も、一造会の誇る大きな特徴だが、さらに前回の役員改選では女性幹事も誕生。現在2名の若手技術者が役員会に参加している。そして、世代交代にも前向きに取り組む一造会だが、これまで活躍された方々がアドバイザー会議委員として、その後も会の運営に協力していることも一造会の大きな力となっている。そのほか、顧問、相談役には造園界を代表する各先生方が参加し、形だけでなく、年に1、2回の「事業報告会」をはじめ、さまざまな機会に、忌憚のない意見を寄せ、叱咤激励してくれるのも技術者によるフィードバックからそのもの。造園の一技術者として、同じ立場で、造園を語ることで、一造会であり、造園の内側だけでなく、広く社会に造園を語りなければならぬのが、現在の課題といえる。

一造会への入会に期待  
今回の「市民交流会」は、一造会賞や若手技術者の意見交換だけでなく、特別講演で南極観測隊の造園技術者として参加した大熊滝代さんらを迎えて、「南極よもやま話」、興水肇・明治大学教授の貴重なスライド約250枚を一挙に上映した「スライドショー」、造園技術や資材などを紹介した「パネル展」など、盛りだくさんの内容で、盛会となった。

一般市民へのアピールにはまだまだ微力だが、今後とも微力ながら継続的に実施していく方針。若手技術者が活躍できる環境づくりが、造園業界の将来に大きく影響してきている。

未入会の一級造園施工管理技士の皆さんのご入会、一造会賞への応募、市民交流会への参加など、企業の支援による一造会への若手技術者の参加も大いに期待されることとす。ぜひ一度、一造会の活動にご参加ください。

(参考) <http://www.icz.jp/>

学生相談コーナー

パネル展

若手技術者の語る会

高橋一造会会長

小川国土交通省公園緑地課長

あいさつする小川

スライドの解説を行う興水教授

写真上から

「一造会賞」に2氏が受賞

市民交流会

特別講演「南極よもやま話」

一造会賞受賞記念講演会

「市民交流会」を開催

設立20周年へ向けて

取得困難な最高位資格

業界の将来担う若手技術者が活躍できる環境づくりを推進

技術レポート No. 025

協 造 日 報

平成19年 6月10日

(3)

第399号





# エコ・グリーンテック 2007 当協会 振興会の一員で出展

日造協は5月23日から25日まで、東京ビッグサイトで開催された第11回環境・緑化産業展「エコ・グリーンテック2007」に今年度は、造園・環境緑化産業振興会の一員として出展した。特別講演では、東京オリピックに向けた環境整備の提案や校庭の芝生化、美しい国の街路樹づくりなどが開催され、多くの来場者が熱心に耳を傾けた。

造園・環境緑化産業振興会の展示ブースは、「美しい日本をつくる主役です」をテーマに構成5団体の取り組みを紹介。日造協は、「造園のじもと」「緑をつくりまもる」など、協会、会員の活動をアピールした。なお、エコ・グリーンテック2008は5月28、29、30日に開催を予定している。



試験樹木の植栽作業の様子

鳥国である日本は、暴風や潮害、飛砂等から家屋や農作物を守るための植林が古くから行われ、防風林として沿岸各地の住民生活の安定や農業振興、景観形成に大きな役割を果たしている。九州では唐津市の虹ノ松原や福岡市の生の松原が知られて、また干拓地の例としては、秋田県の八郎潟干拓地現・大瀧村では幹線道路沿いに東西12km、南北27kmに及び防風林がある。諫早干拓地は、優良な大

規模農地の造営を目的に営事業として干拓事業が進められてきた。諫早市、雲仙市にまたがり事業規模は干拓地面積942ha(農業用地693ha、道水路敷123ha、堤防用地1260ha)、調整池面積2600haで諫早干拓地の総締切面積は、113542haに及び、完成後は、路地野菜、施設野菜、施設花き、酪農等の一大生産基地となる。

**噴水ポンプ『ソーラー電源ユニット』**

- 消費電力20W~36W
- 噴水ポンプを間欠駆動
- 太陽電池を電蔵しますので配線工事不要
- 本体寸法500mm×530mm×290mmと比較的小型

・屋上緑化などのウォーターガーデンに利用可能  
 ・曇の日でも駆動駆動時間晴天時の数倍~十数倍  
 ・耐久性の高、蓄電機構を採用  
 詳細は下記URLをご覧ください  
<http://www2.odn.ne.jp/sasayuri-shop/>  
 製造販売元：ささゆり商店  
 Tel044-954-7246



実技講習の様子

# 総・支部 だより

各総支部・支部からの記事を紹介します

## 伝統的 石積み技法の 講習会を開催

滋賀県支部

滋賀県支部では、2年前より関西地方独特の伝統的「石積み」「くずれ石積み」の技法を庭師・造園家を指導す

これからの若者に継承するため、開催をして来ましたが、本年度、3回目になり、案内から準備・座学(資料作成)・実技等少しは慣れたかと思えます。内容的には

本年度、3回目になり、案内から準備・座学(資料作成)・実技等少しは慣れたかと思えます。内容的には



屋上緑化をPRした業界紙の紙面

各会員事業所より1名の若手で初心者を対象に募集し、2日間連続で行いました。2日目を午前・午後と4つに分け1日目午前中に座学(講師は会員の中からお願いし、くずれ石積みの特徴・積む時の注意点を写真や図面で解説していただき、勉強し、残りの3講を実技として講師1人に受講生3人

を1班とし、計4班で実施しました。受講生は、直接石を積む人・その手元をする人・ユニック車を動かす人と3役を1講つづ交代をしながら講師からの指導を受けていただき、それぞれの役割をすることで石積みは1人では出来ない事も体験していただいたのではと思っています。

講師の方にも、出来るだけ受講生が石を積めるように指導をお願いしました。会場については、元支部長に場所をお借りし石材に付いても無理を申し上げたが、協力いただき、出来た講習会と感謝しています。有難う御座いました。

最後に、継承するという難しさに負けず、今後も講習会を続けていければと思います。また、滋賀県支部では、屋上緑化・校庭緑化の視察

- 事務局の動き**
- 5月
    - 8日・広報日造協 編集会議
    - 10日・街路樹樹形再生キースト 編集委員会
    - 11日・正副会長、常設3委員長 合同会議
    - 14日・日本造園修景協会展任 理事会
    - 16日・日本公園緑地全国大会 17日
    - 17日・総務委員会企画部会

- 18日(金) 海外日本庭園委員会 都市公園法施行50周年実行委員会
- 19日(土) 日本造園学会全国大会 21日
- 21日 総務委員会財務部会 監事監査
- 22日(火) 技術委員会技術情報部会
- 23日(水) 建設広報協議会総会
- 24日(木) 建設広報協議会(全国) 資格制度普及分科会と制度資格部会合同会議
- 25日(金) 6日本造園組合連合会総会
- 28日(火) 7日本緑化センター 理事会
- 29日(火) 街路樹樹形再生普及・啓発 説明会(北海道開発局)

- 1日(金) 第1回通常理事会
- 2日(土) 全国「みどりの愛護」の集い
- 4日(月) 東京多摩地域への花博誘致の集い
- 5日(火) 公共建築協会・営繕共通仕様書 についてのヒアリング
- 5日(火) 7日本造園修景協会展任 理事会
- 6日(水) 7日本公園施設業協会委員会

- 8日(金) 07全国日本グリーンサミット 秋田大会 10日
- 11日(月) 国際交流推進専門部会
- 18日(月) 建設業適正取引推進機構 評議員会
- 19日(火) 自然環境共生技術協会 理事会・総会
- 20日(水) 平成19年度通常総会
- 26日(火) 民間都市開発推進機構 理事会

## 諫早干拓地における 樹木植栽試験に取り組む

九州総支部

長崎県支部では、平成17年度から長崎県造協と共同で、諫早干拓地内の樹木の植栽試験に取り組んでいる。試験期間は平成17・

18・19年度の3ヶ年間で、17年度に植栽、18年度・19年度は維持管理と養生、干害や台風、潮風などの影響による生育状況の把握を行った。

有明海は通常は穏やかな内海であるが、遮るものがない平坦地での干拓地では潮風による植物や農作物等への被害が深刻なものとなる。この厳しい自然条件に耐え、暴風や潮害に対して強靱で正常に生育できる植栽に適した樹種を確認・判断するとともに、植栽基盤の改良や改善の方策を導き出すことを目指している。

まず、樹木の選定に当たっては、大風・潮風・湿度・乾燥・瘦地等5項目の基準を設け、強弱や生育度合いが期待でき、景観的にも良好な樹木とする。

生態系に関しては、樹高や幹周り・葉張・成木や中木、幼木の選定・養生に関する方法・維持管理に関する方法と対策、営農との関係は適か不適か、等の項目を設けた。また、植栽基盤については、土壌条件、土壌改良や施肥、客土等6項目に及び、長崎県支部の植

栽基礎診断士による「土壌透水試験」、「土壌調査(ph・EC)」も実施した。試験樹木は35種140本を植栽した。

近く、中間報告書が取りまとめられるが、干拓地特有の潮害や土壌条件等、厳しい制約の中で、どのような農村環境が形づくられていくのか、植栽試験の成果が期待されている。

(九州総支部・事務局長 市丸敬和)